

医療法人真鶴会 小倉第一病院

〒803-0846 福岡県北九州市小倉北区下到津1丁目12-14

☎ 093-582-7730 📠 093-592-7689



Home Page



交通アクセス



Facebook



YouTube



LINE



採用情報



院内FreeWi-Fiご利用できます

5F：サービス付き高齢者向け住宅 はぴりば ……

4F：医療療養病棟・リハビリテーション室

3F：一般病棟・透析室（入院）

2F：透析室（外来）

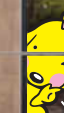
1F：一般外来



Home Page

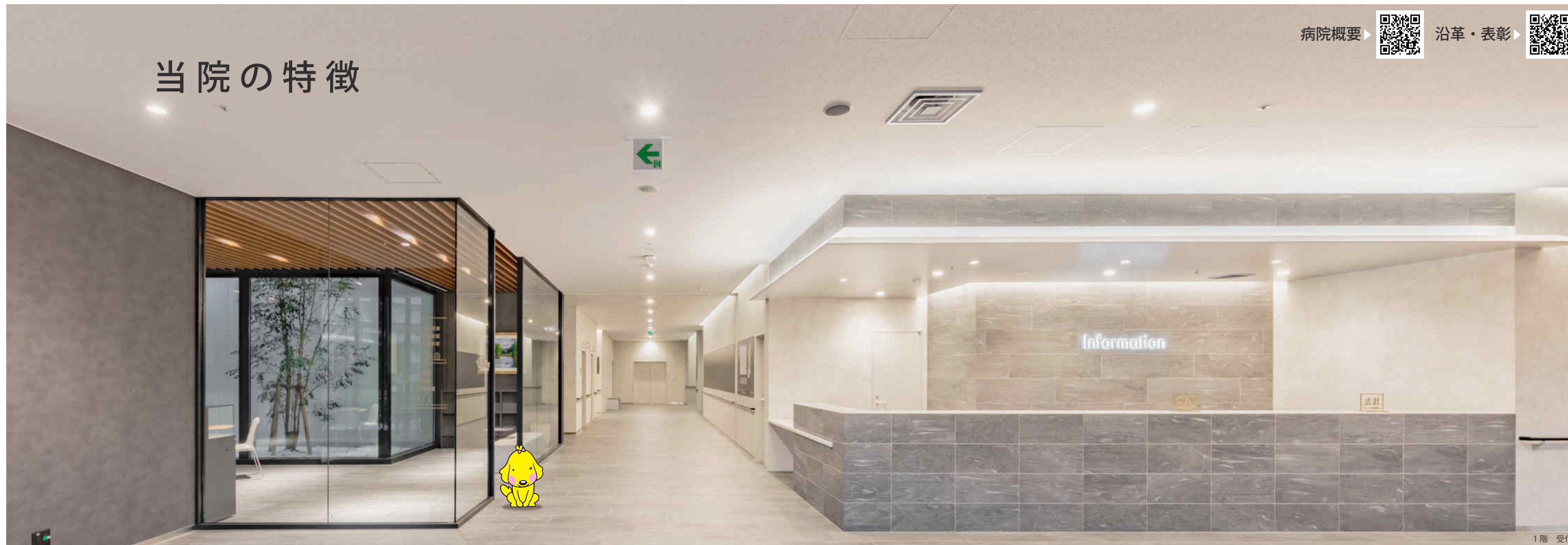
Kokura Daiichi Hospital

病院のご案内





当院の特徴



1階 受付

小倉第一病院は、患者さんの完全社会復帰を基本精神とし慢性腎臓病における**全ての期間の医療**を提供しています

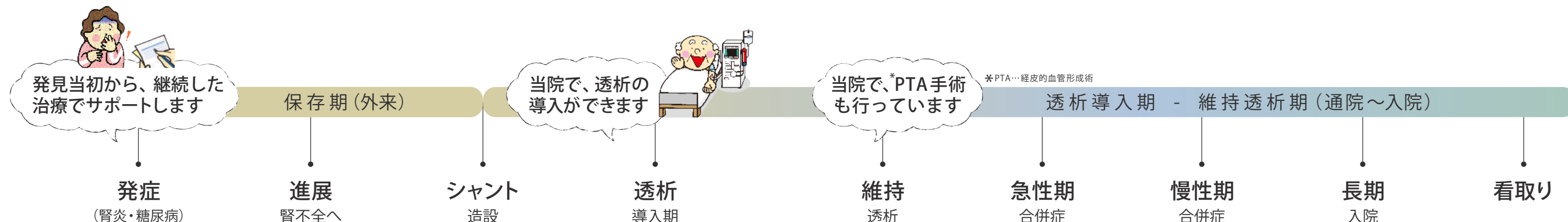


私どもの病院は、1972年に九州で最初の夜間透析ができる透析クリニックとして誕生（北九州クリニック）しました。1985年に現在の小倉第一病院に改組した後も、透析医療を中心として成長し、慢性腎臓病の発症初期から透析患者の終末期医療まで、慢性腎臓病のほぼ全てのステージで医療を提供できる体制を構築してきました。現在も透析医療中心の体制ではありますが、2015年に形成外科医、2021年に外科医、皮膚科医が常勤医となり 2021年11月には新築移転を致しました。バスキュラーアクセスの血管内治療やフットケアなど、対応できる透析合併症の幅を広げていくとともに、それぞれの専門医の得意とする分野でも地域に貢献していきたいと思ひます。

理事長・院長 中村秀敏

施設名
管理者
所在地
連絡先
開院
規模
構造・階数
診療科目
専門
入院許可病床数
同時透析
血液透析患者数
透析診療時間

医療法人真鶴会 小倉第一病院
理事長・院長 中村 秀敏
〒803-0846 福岡県北九州市小倉北区下道津1丁目12-14
TEL / 093-582-7730 FAX / 093-592-7689
1972（昭和47）年 12月
延床面積 9,353.83㎡（病院部分のみ）11,105.45㎡（サービス付き高齢者向け住宅含む）
鉄骨造 5階建（5階：サービス付き高齢者向け住宅 はびりば）
腎臓内科／糖尿病内科／人工透析内科／内分泌内科／リウマチ科／形成外科／皮膚科
血液透析・腎臓病・糖尿病
80床 内訳：3階 一般病棟 32床（うち地域包括ケア病床10床） 4階 医療療養病棟 48床
125床
約 330名
月・水・金 / 7時～25時 火・木・土 / 7時～21時



理念

「透析患者の完全社会復帰」という設立理念を基本精神とし、
真に患者中心の問題解決を果たしていく地域医療を追求します

基本方針

慢性腎臓病、糖尿病に関する医療を中心として
新しいこと、困難なことにチャレンジし、
質の高い医療・ケアを提供します

地域のさまざまなリソースを活かし
患者さんの受ける恩恵を最大限に拡げます

職員の健康・優しさ・やりがいを追求し、
患者さんの元気・明るさ・生きがいへと繋がります

新しく取り入れたサービス・機能



▲ 1. 設計初期から土井英史氏に感染対策の監修を依頼



▲ 2. フットケアに特化した設備 (写真は2階透析室)



▲ 3. キッチンスタジオと透析患者さんの食事サロン (2階)

1. 院内感染対策の一環として、環境サービス室を新設

透析患者さんは免疫力が弱く、死因の第2位が感染症です。日本感染管理支援協会代表理事の土井英史氏に監修していただき、設計の初期段階から構造、職員動線、患者動線、環境表面の材質、清掃管理などに意見をいただきました。透析のベッド間隔も十分に確保し、新型コロナウイルス感染予防にも効果を発揮できると考えています。環境サービス室も新設しました。環境表面の清掃に関して院内で統一基準、マニュアルを作成して環境管理の徹底を図ります。

2. フットケア専用のスペース、設備を新設

形成外科や皮膚科が担うフットケアの処置に対応できるように、外来診察室と外来透析室にそれぞれ炭酸泉浴の設備を新設しました。下肢末梢動脈疾患は下肢切断のリスクが高い疾患であり、透析患者の合併症のひとつです。血流改善、高血圧、冷え性対策、保清等の効果が期待できます。フットケア専用のスペース・設備があり、下肢末梢動脈疾患に関わる透析医、形成外科医、皮膚科医が連携する体制の透析施設となりました。

3. キッチンスタジオを新設

以前より腎臓病、糖尿病の栄養指導には力を入れてきましたが、実際の調理まで直接指導が可能となるキッチンスタジオを新設しました。一人暮らしの方でも、安心して治療食を調理できるよう取り組んでいきたいと考えています。また従来から実施していた集団栄養指導用の動画撮影にも、このスタジオを活用しています。



目指す病院像実現のためのしかけ



▲ 1 立体駐車場から治療棟へ、渡り廊下で直接入ることが可能



▲ 2 病室から入院用透析室へと水平移送が可能 (3階病棟)



▲ 3 透析患者さんのQOLの維持・向上にむけて (リハビリ室)

透析医療の黎明期に比べ、透析患者さんは30年、40年と長く治療を続けられ、80歳、90歳以上で導入する方が増えてきました。そのため長期透析による合併症や、サルコペニア・フレイルに起因する通院困難の問題があります。

① 患者さんの通院環境を向上させるための最大のしかけは、病院横に建てた立体駐車場 (91台収容) から渡り廊下を設けたことです。駐車場から病院の透析フロア (2階) に直接入れるようにし、通院送迎車も、立体駐車場の2階で患者さんの乗降が可能となっています。

② フロアは1階が外来や検査、2階が外来透析室、3階が一般病棟、地域包括ケア病床と入院用透析室、4階が医療療養病棟とリハビリテーション室、5階がサービス付き高齢者向け住宅の構造となっています。一般外来患者さん、血液透析通院患者さん、入院患者さんが動線上ほとんど接することのない、プライバシーに配慮した設計となっています。

③ 腎臓リハビリテーションという言葉もあるように、透析患者や慢性腎臓病患者を対象とした、リハビリテーションのニーズが高まっています。リハビリ室は、旧病院よりも約4倍の広さとなりました。

医師の紹介

各診療科・医師プロフィール▶



公式 YouTube チャンネル▶
(当院の医療動画を閲覧出来ます)



腎臓内科・人工透析内科

患者さんも家族も安心して
医療を受けられるよう
努めています

患者さんの目線で
患者さんと同じ目標に向かって
より良い医療を目指します

頭も 体も 柔らかく
なるべくわかりやすい
説明を心がけています

腎臓内科・人工透析内科

腎不全・透析医療の
「とことん」を
追求します!

形成外科

病気そのものではなく
病気を持つ人を診るために
自分の専門を
どう活かしていくか考えています

皮膚科

「先生に
診てもらえて良かった」と
思われる存在に!



河野 広貴



人工透析内科部長
吉松 正憲



副院長
鶴田 宏



理事長・院長
中村 秀敏



副院長・形成外科部長
石井 義輝



皮膚科部長
大森 俊

非常勤医師

糖尿病内科・内分泌内科



白水 明代

整形外科



黒崎整形外科病院 安永 博

高血圧内科



九州歯科大学 大田 祐子
(九州大学より派遣)

消化器内科



おかベクリニック 岡部 宏明

歯科



林歯科医院 林 恵子

リウマチ科



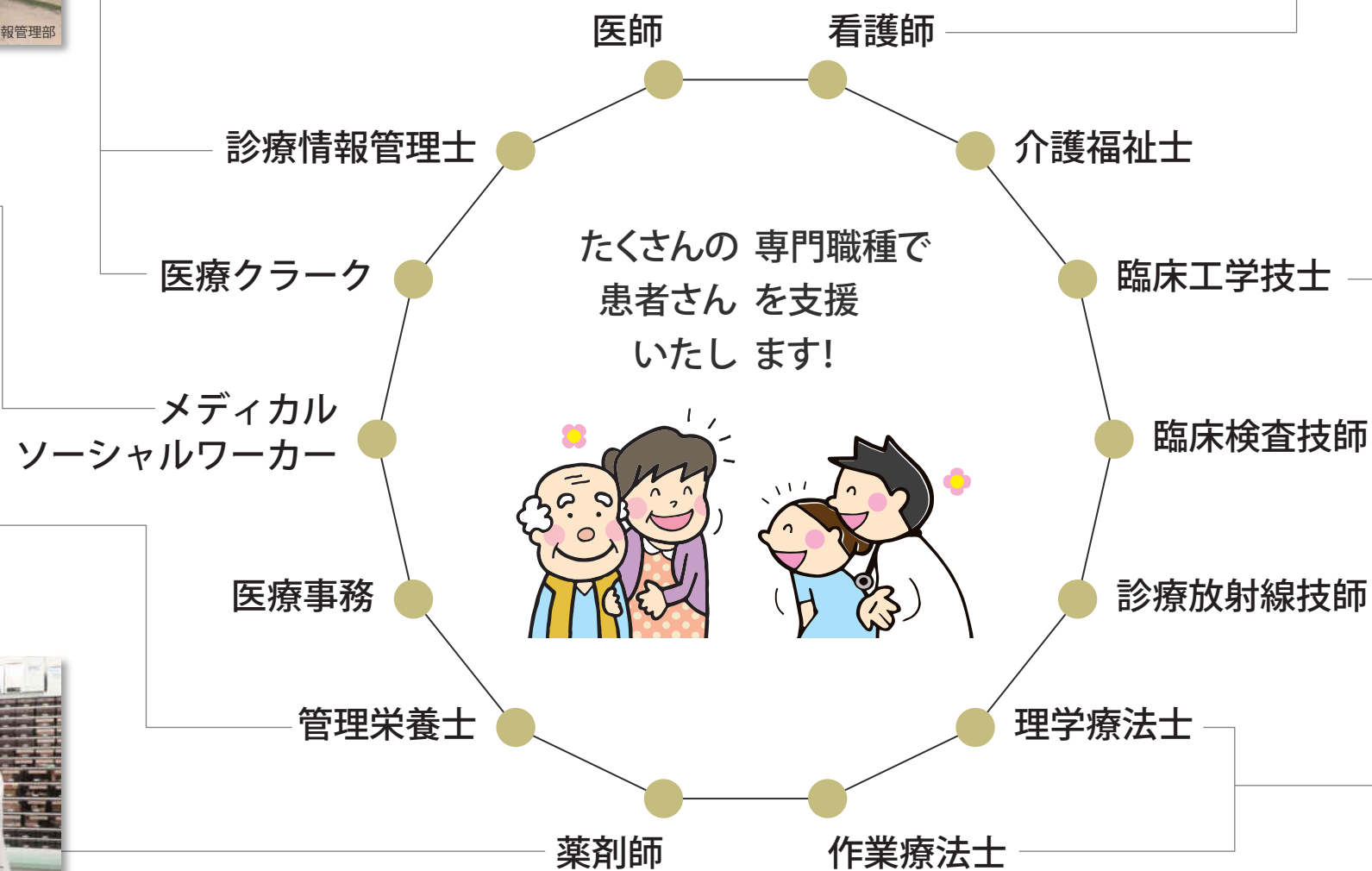
産業医科大学医師

多職種連携

部門紹介▶



豊富な職種のスタッフがチームをつくり
患者さんと密に関わりサポートします



資格取得者数 令和5年10月現在

● 透析技術認定士（透析療法合同専門委員会認定）	 17 名	● 認知症ケア専門士（日本認知症ケア学会認定）	 3 名
● 腹膜透析認定指導看護師（特定非営利活動法人日本腹膜透析医学会認定）	 9 名	● 環境サービス認定専門家（日本医療・福祉環境サービス協会認定）	 8 名
● 慢性腎臓病療養指導看護師（日本腎不全看護学会認定）	 8 名	● 血液浄化専門臨床工学技士（日本臨床工学技士会認定）	 1 名
● 日本糖尿病療養指導士（一般社団法人日本糖尿病療養指導士認定機構認定）	 2 名	● 腎臓病療養指導士（腎臓病療養指導士四団体合同認定委員会認定）	 2 名
● 福岡県糖尿病療養指導士（福岡県糖尿病療養指導士北九州地区認定委員会認定）	 9 名	● 糖尿病看護認定看護師（日本看護協会認定）	 1 名
● フットケア指導士（一般社団法人日本フットケア・足病医学会認定）	 8 名	● 腎臓リハビリテーション指導士（日本腎臓リハビリテーション学会認定）	 2 名
● 呼吸療法認定士（3学会合同呼吸療法認定士認定委員会認定）	 4 名	● 健康運動指導士（健康・体力づくり事業財団認定）	 1 名
		● サルコペニア・フレイル指導士（日本サルコペニア・フレイル学会認定）	 1 名

委員会・チームの紹介 (一部)

資格取得者数、委員会・チーム活動▶



院内感染対策委員会

院内での医療関連感染の発症防止、感染症発症時の院内感染・感染拡大防止策や対応を、日々実施しています。感染症専門医（外部顧問）による年2回の感染対策講義を開催、さらには委員会にも参加いただき問題の協議・検討・解決を図っています。



医療安全管理委員会

定期的な活動のほか、委員会メンバーや医療安全推進者の中から日々の当日管理責任者を置き、インシデント・アクシデント発生時には電話での対応および現場に直行し対応を指示しています。院内ラウンドや研修の参加、年2回の伝達講習を行っています。



教育・研修委員会

質の高い医療を提供するため、人材の教育・研修は極めて重要です。全職員には共通して必要な「感染管理」「個人情報」「接遇」「医療倫理」研修を、新入職員には独自の座学研修に加え、80時間のITリテラシー研修にて学会発表のスキルにつなげています。



褥瘡対策委員会

高齢化に伴い、褥瘡発生リスクを抱える入院患者さんは増加しています。2015年に形成外科医が常勤として着任、さらに非常勤の皮膚・排泄ケア認定看護師が褥瘡対策に関与するようになり、院内で重症褥瘡が発生することはほとんどなくなりました。



大会議室 ABC

バスキュラーアクセス(VA)委員会

患者さんのバスキュラーアクセス保護を目的に、新入職員向け教育や透析時の再穿刺率低減を目指した活動を行っています。2022年度からは手術チームと協働し、PTA（経皮的血管形成術）業務のサポートも行っています。



フットケア委員会

透析室看護師5名、病棟看護師5名で構成され（内7名がフットケア指導士）、透析患者の足病変のリスクの把握、予防、早期発見を行っています。外部講師によるコンサル、「足のケア外来」運営のほか、市民公開講座にてフットケアの啓発活動に取り組んでいます。



NST(入院／外来)委員会

個々の患者さんの病態や栄養状態、身体機能などに応じた最適な栄養サポートを提案、実践する医療チームです。透析患者さんの生命予後で重要とされる血清リン値について、対象患者の薬剤や食事、透析条件等の問題点に多職種で対応します。

NST…Nutrition Support Team (栄養サポートチーム) の略



SSTチーム

2023年4月より活動を開始しました。慢性腎臓病患者さんの皮膚トラブルの予防、早期発見、症状緩和について、多職種（皮膚科医、看護師、臨床工学技士、薬剤師、管理栄養士、医療クラーク）で多面的にアプローチしていきます。

SST…Skin care Support Team (スキンケアサポートチーム) の略



一般外来

(腎臓内科・糖尿病内科・内分泌内科・リウマチ科・形成外科・皮膚科)

外来診療担当表▶



腎臓病・糖尿病の専門病院として
発見当初から継続した治療でサポートいたします



午前 9時～ 午後 13時～ 夜間 17時～20時(腎臓内科・皮膚科のみ)

当院は時間予約制です。
受診の際は、お電話にてご予約ください。



受診予約のお電話でお伝えいただくこと

- お名前(漢字での表記もお伝え下さい) ● 生年月日 ● 性別
- お電話番号(日中連絡が取れる番号) ● ご希望の診療科 ● 診療希望の日

受診時にお持ちいただくもの

- 健康保険証(そのほか医療証がございましたらお持ちください)
- 初診の方は紹介状(診療情報提供書)やお薬手帳 ※紹介状が無い場合でも受診は可能です。

夜間外来診療について

「腎臓内科」「皮膚科」のみ、水曜の夜間 17 時～ 20 時にも外来受診が可能です。
昼間はなかなか病院を受診できない学生や仕事帰りの方々に、活用いただければと考えています。



腎臓内科：中村 秀敏(理事長・院長) 医師



皮膚科：大森 俊(皮膚科部長) 医師

訪問診療・往診について

訪問診療相談申し込み▶



当院では新病院への移転を機に、よりいっそう地域医療に貢献すべく、
訪問診療を行っております。「腎臓内科」「形成外科」「皮膚科」で対応
が可能ですので、お困りのことがあればお気軽にご連絡ください。



慢性腎臓病／腹膜透析 など



足部変形(リウマチ・外反母趾)／爪変形
良性・悪性皮膚腫瘍／糖尿病性足病変／褥瘡／熱傷／難治性創傷



爪、髪の毛、汗のトラブル／アトピー性皮膚炎、蕁麻疹
小児の皮膚疾患／皮膚がんの鑑別／透析患者に合併する皮膚疾患

私たち訪問診療
チームは、その方らしい
治療選択に寄り添いたいと
考えています。
どうぞお気軽に
ご相談ください。



お問合せ：外来スタッフまでお願い致します ☎093-582-7730

外来透析

(90床／透析ベッド57床・透析チェア30床・個室透析ベッド3床)

透析医療について▶



当院の透析室のご案内▶



透析のための綺麗な水の作り方▶



月水金 7時～25時 火木土 7時～21時

透析曜日、時間の変更もできます。
(救急患者365日、24時間対応)



透析患者さんは週に3回、年間156回の通院治療をされるため「第2の住まい」だと思っていただけるように、病院らしくない外観や内装となるような設計となっています。多くの永年勤続スタッフが在籍しており、幅広い知識と安全で確実な技術を提供できるよう日々努めています。

臨時透析について

臨時透析の詳細▶



臨時透析とは、通常通院している施設とは別の施設(主に旅行先)で臨時的に血液透析を行うものです。当院では、旅行や出張など宿泊を伴う外出、遠方からいらした方の臨時透析が可能です。

在宅血液透析について

在宅血液透析のパフレット▶



「透析」に合わせた生活から、「生活」に合わせた透析へ
あなたが創る“快適”透析ライフの選択肢として

これまで病院で行っていた血液透析を、装置を自宅に設置し、ライフスタイルに合わせて自分で治療を行うことを「在宅血液透析」といいます。医療チームのサポートのもと、十分な指導や訓練を受け、患者さん自身で血液透析(穿刺含む)を行うための必要な知識と技術を身につけていきます。

在宅血液透析は、**介助者との連携が要(かなめ)**となる治療法です。ご興味がありましたら、まずは透析室スタッフまでお声かけください。



送迎サービスについて

外来透析に通う方の多くは、高齢の患者さんです。週3回受ける透析治療への通院を困難とされる方もいらっしゃることから、2017年5月より「勝山タクシー」と提携して、送迎サービスを開始いたしました。立体駐車場2階発着のため、天候を気にせずお車の乗降、透析室への入室が可能です。



一般病棟

(32床／地域包括ケア病床：内10床)

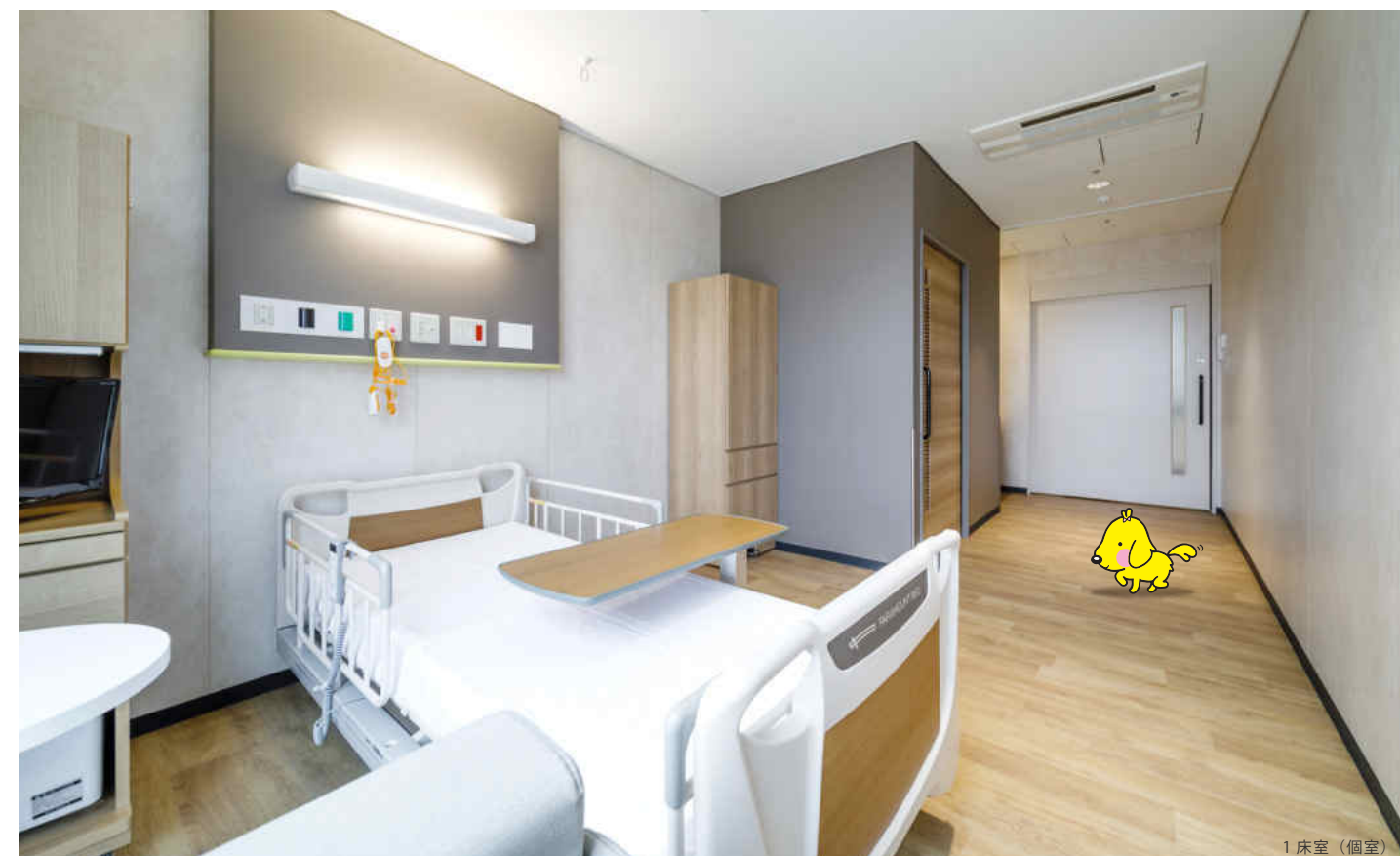
入院について▶



入院のしおり▶



食堂・談話



1床室(個室)



合併症治療、手術(シャント・創傷処置)、食事療法入院、検査入院、リハビリテーション目的などが主です。療養環境を整えて、患者さん一人ひとりを考えた看護技術、サービスを提供いたします。



特別メニュー食(月1回)※入院患者さんのみ(一般病棟・医療療養病棟)

当院の管理栄養士が、季節と患者さんの希望を取り入れた彩の良いメニューを考案し、毎月1回提供しています。入院患者さんに好評で、希望者のみの有料サービスです。

3階透析室について

午前と午後の2回、入院患者さんの透析を行っています。
外来の介護が必要な患者さんや認知症の患者さんに対しては、安全に透析が行えるよう、観察の行き届く6床の要介護透析室で、見守りを強化し行っています。

- ・3階透析室……………24床
- ・3階要介護透析室…6床
- ・3階観察室……………3床
- ・3階隔離室……………2床



3階 透析室



3階 要介護透析室

地域包括ケア病床について

急性期治療後、病状が安定した患者さんに対して在宅や介護施設で安心して生活できるようにするための退院支援やリハビリを中心に行う**在宅復帰を支援するための病床**です。

また**レスパイト入院**(ご家族の方の介護疲れや病気、冠婚葬祭など、在宅での介護が一時的に困難になった場合の入院)も可能です。

地域包括ケア病床への**入院期間は、最長 60 日**です。

在宅復帰をスムーズに行うために、主治医、看護師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーなど、関係職種が連携して、効率的かつ積極的に患者さんの在宅支援(相談・準備など)を行っています。



4床室

医療療養病棟 (48床)



4床室



比較的病状が安定した患者さんや様々な理由で長期入院が必要な患者さんの入院などが主です。いつも明るく笑顔で、患者さんが“ほっ”とできる環境を心掛けています。

リハビリテーションについて

リハビリテーション科



入院中



集団起立・着席運動

退院後

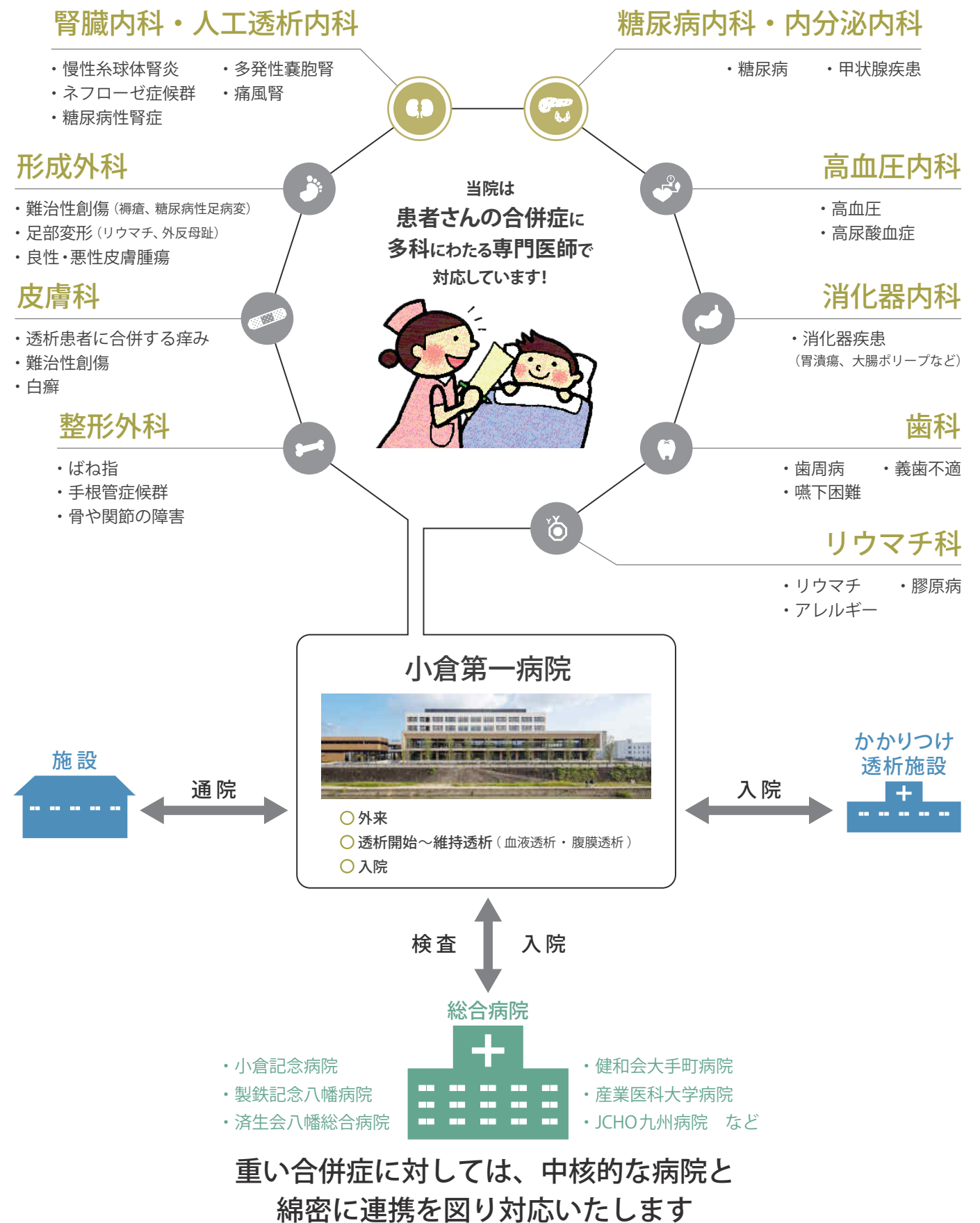


介護保険サービス

入院による下肢筋力の低下予防（サルコペニア対策）や、筋力強化による歩行能力の改善を目的とし、**集団起立・着席運動**を中心に歩行訓練やベッドサイドリハビリ、浴室・排泄時の動作訓練などのリハビリを行っております。

在宅で安心した生活が行えるよう、介護保険を用いた**訪問リハビリ**を行っています。また、透析の前や後に運動したいという患者さんの声に応え下肢筋力の低下を予防する1～2時間の運動を**通所リハビリ**にて提供しています。

合併症への対応と充実した医療連携体制



北九州市は、全国有数の医療提供体制です